

# 原

【はら】

/The Field/

## 命と向き合う

藤井智之

八ヶ岳中央農業実践大学校校長

長い伝統に培われた  
実践的な学習内容と  
雄大な自然環境において  
日本一の農業大学校です。

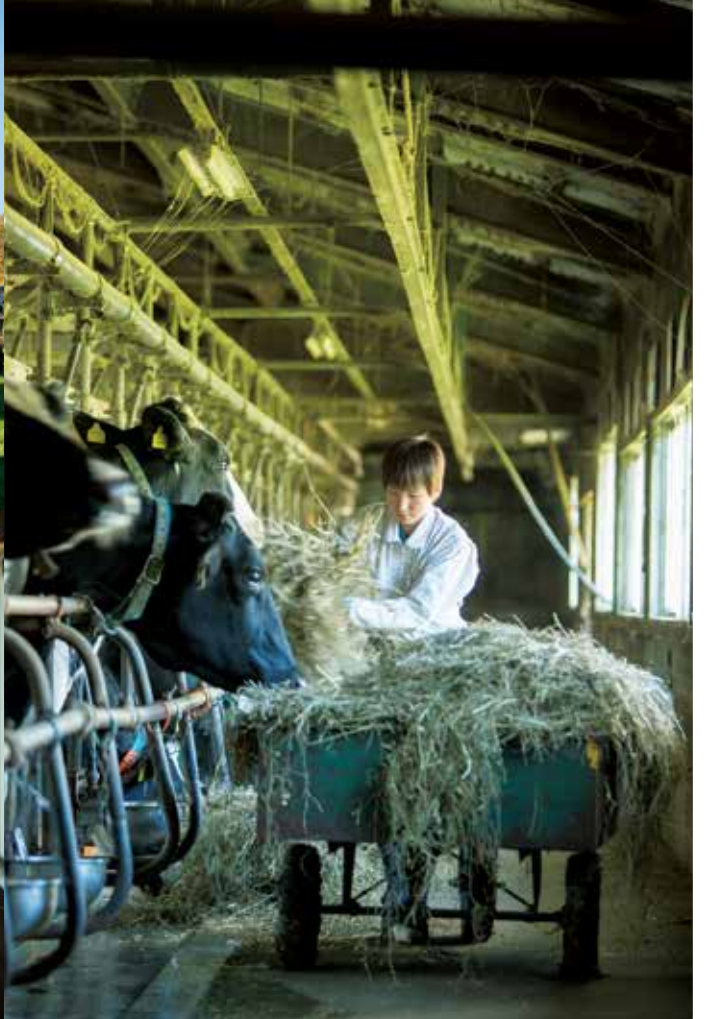
豊かな自然、澄んだ空気と鮮やかな緑に抱かれて、八ヶ岳中央農業実践大学校はあります。諏訪盆地を見下ろす標高1300mの高原に拓けた270ha余の大農場で、長い伝統に培われた実践的な学習内容と雄大な自然環境において日本一の農業大学校です。

本校は昭和13（1938）年に「八ヶ岳修練農場」として設立され、初代校長は、開墾を指揮した後の農林大臣の石黒忠篤先生、二代目校長は後の高知大学学長の久保佐土美先生です。職員と学生が一体となった農場開墾が基礎にあつて、師弟同行の理念と徹底した実践の教育方針が現在まで引き継がれてきています。卒業生はおおよそ3000名で、国内のみならず世界中で活躍し、一流の農業経営者や農村の指導者をはじめ、多くの先輩方が活躍しています。

セロリーやブロッコリーなどの高原野菜やスイートコーンなどの畑作、シクラメンやパンジー・ビオラなどの花卉園芸、牧草地・放牧地を活用した乳牛による酪農、平飼いを含む採卵鶏の養鶏など、耕畜両面にわたる農業を営農規模で実践的に教育しています。特に先進農業技術の取り組みでは、移動搾乳技術の導入による新たな放牧酪農の実証研究やITを活用した生育予測技術によるトウモロコシ等の農産園芸作物の栽培実践などを進めています。

校内の直売所では、実践的な教育を目的として農業を事業として経営することにより生産される農産物を毎日販売しています。そこには、朝採り野菜や色とりどりの花卉、産直鶏卵など、そして毎日搾る生乳を原料とする牛乳・ヨーグルト・アイスクリーム・チーズなどの乳製品があります。

さらに、本校が日本最大の農林業教育ファームであることから、首都圏などから毎年2万人近い児童生徒が農林業体験学習に訪れています。都会の子供たちが、農業や食への関心を高めるとともに、「いのち」について学ぶ格好の機会ともなっています。また、社会人や高校生などを対象にした短期研修にも取り組んでおり、官公庁・団体等の新任者研修等幅広い分野の社会人を対象とした研修、毎年夏休期間中の高校生を対象とした1週間程度の研修会を実施しています。最近では、幼児に対する食育を狙いとして、幼児教育を担当する保育者等を対象とした農林業体験学習のプログラムを開発するため研修会も開催しています。



# 村

【ムラ】

/The Village/

いまから 6000 年前、  
信州では最大級のムラが  
栄えていました。

## 縄文の里

会田進

長野県文化財保護審議委員

700万年とも400万年ともいわれる人類史の中で、日本列島における人類の歴史は4万年を遡るかどうかです。原村の歴史は2万年前の人類の足跡（柳沢の弓振日向遺跡）から始まります。縄文時代には、縄文王国とも縄文の都ともうたわれるほどに繁栄した地域でした。縄文時代前期、いまから6000年前ごろから営まれた阿久、そして繁栄の頂点、中期の菖蒲沢の大石・居沢尾根遺跡、柏木の前尾根遺跡には、信州でも最大級のムラが栄えていました。

### 縄文の都 八ヶ岳南西麓

縄文時代の八ヶ岳山麓は、標高900メートルを超える広大な緩斜面を形成し、一面に落葉広葉樹林が広がっていました。縄文人は、この豊かなモリとハラを最大限に利用して、最も巧みに食糧を生産・収穫する、人類史上最高の技術と英知を持っていたと考えられています。

### 日本文化のルーツ

縄文人は私たち現日本人の直接の祖先ということがわかってきました。2500年前日本が農耕社会に代わっても、縄文文化は深層文化として、日本の文化の中に根強く残り、大陸の文化と異なる特色をもっているといわれています。縄文文化が反映した証しは、たくさん遺跡・ムラがあることと、そこから出土する大量の土器や石器があることです。原村は小さな村ですが100か所の遺跡が集中します。そこから出土した縄文土器は、著名な井戸尻や尖石遺跡にも決して劣ることのない芸術性豊かで、造形美に優れています。

### 縄文土器の原始芸術

縄文土器の文様は世界史の中でも類を見ない独特の、個性豊かな原始芸術の美として世界に知られています。その特徴は、器面に浮き出た太い粘土紐によって描かれた豪壮、雄大、そして躍動する文様、竹細工のよう

な華麗、繊細な文様です。そして縁から上に突き出す獣や鳥や人間の顔を抽象化したような把手状の立体的な装飾、不可思議な絵文字のようなサイン文、またリズムミカルな繰り返しと調和の幾何学文、これらは縄文人のメッセージや物語を語りかけてくるような文様です。縄文人のものの考え方を表しているといわれ、見る人に強烈な印象を投げかけてきます。

### 縄文人の心を世界に発信！

#### 縄文時代の一大中心地原村から

縄文人は大きな争いや戦をしませんでした。生命の誕生を祈り、子供の健全やかな成長を願い、弱者を虐げない、心の優しい人類であったことが知られています。縄文文化が豊かに育まれ、縄文人の血を、文化を色濃く残す八ヶ岳山麓のハラは、縄文人の平和な精神を引継ぎ、そして世界に発信できる地です。

あいだすすむ

1947年、木曾生まれ安曇野育ち。市立岡谷蚕糸博物館に勤務、以後38年間文化財保護行政に専従、「蚕糸博物館紀要」編集などに取り組む。2002年、尖石縄文文化賞受賞。前長野県考古学会会長。2009年から原村在住。



ほおづえをついたような顔（右上）  
 や器の中を覗き込むような顔（右下）は縄文の女性か、森の妖精か、  
 何かを物語るような不思議な模様  
 や立体装飾、原村の遺跡から発掘  
 された個性豊かな縄文土器。